

写真提供

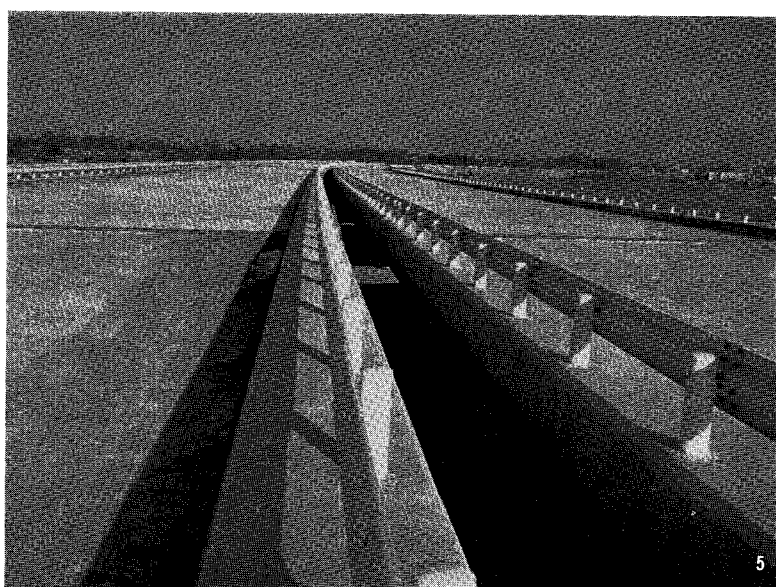
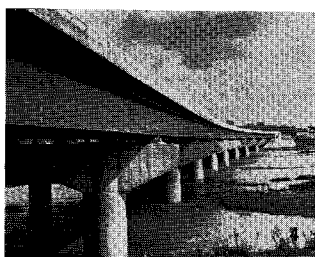
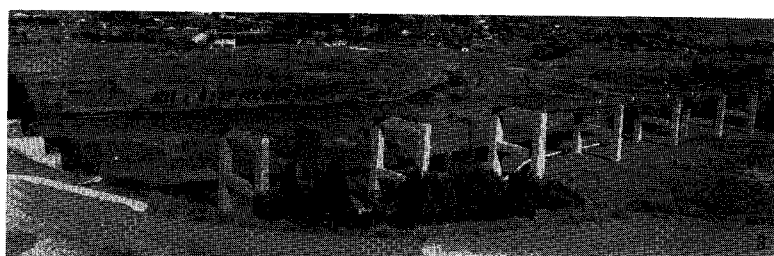
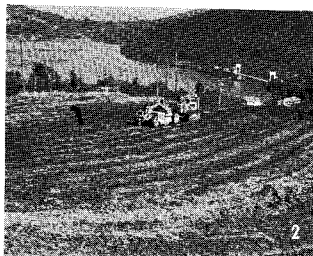
東名高速道路浜名湖橋 建設工事順調にすすむ

浜名湖北部を横切る地点に架設される本橋は、大草山、館山寺温泉をかたわらにひかえ、景観を誇る佐久米サービスエリアに接する地に建設される。東名高速道路でも有数の橋梁である。詳細は本文ニュース欄を参照されたい。

日本道路公団／白石基礎工事株式会社



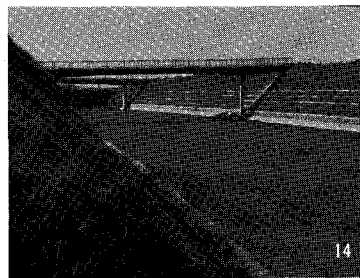
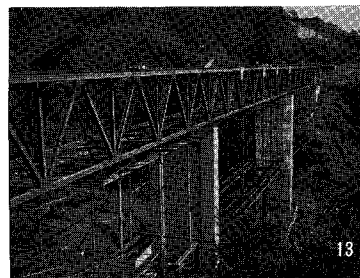
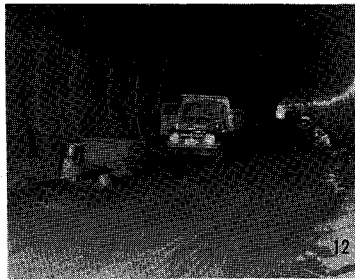
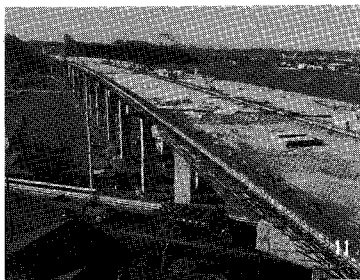
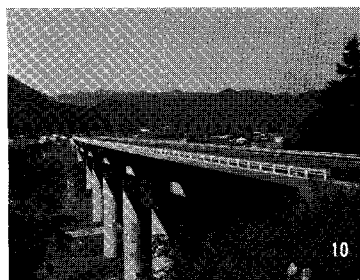
最盛期を迎えた中央自動車道(東京～富士吉田線) 建設工事



中央自動車道のメインルートは東京～西宮間である。本区間中名神高速道路として小牧～西宮間はすでに完成、供用を開始しているが、残区間中の東京～富士吉田間が、昭和42年12月供用開始を目標に現在鋭意工事中である。詳細は本号報告欄を参照されたい。

写真説明

- 1 分梅高架／多摩川方向から府中側を望む。右上方は東京競馬場である
- 2 相模湖インターチェンジ／前方の湖が相模湖。左上方の橋梁は勝瀬橋である
- 3 倉見高架
- 4, 5 多摩川橋／4は右岸から左岸（府中インターチェンジ）方向を望む
- 6 分梅高架を上空よりみる／始点付近より多摩川方向を望む。右隅下・国鉄南武線、左下の建物はサントリー武蔵野工場
- 7 西桂高架
- 8 西八王子工事／駒木野の畔より元八王子方向を望む
- 9 浅利工事／浅利橋下部工の現場を西側からみる。前方山腹に大月トンネル導口西口がみえる
- 10 谷村橋
- 11 姥久保橋
- 12 小仏第一トンネル／坑内より西坑門方向をみる
- 13 境川橋梁
- 14, 15 八王子石川工事／15は始点付近より八王子方向をみる
- 16, 18 八王子インターチェンジ工事／16・上方が日野方面、下部左から右下に走っている道路が国道16号線である（左側が拝島方向、右が八王子方向）





左から右下に走っている道路が国道
16号線である（左側が伊丹方向、
右が八王子方向）
17 鴨川橋

写真提供・日本道路公団



大阪市道高速道路1号線 道頓堀～湊町間開通

阪神高速道路公団の手で建設がすすめられている大阪市道高速道路1号線のうち、道頓堀南町～西区土佐堀船町間（約2.5km）、西区土佐堀船町～北区堂島浜町（約0.7km）、北区曾根崎新地～南区五反町間（約4.3km）と堂島川港橋（約0.5km）がすでに完成・供用を開始しているが、このほど標記区間3.9kmが完成、大阪市内に延長12kmの環状の高速道路が発生した。詳細については、本文ニュース欄を参照されたい。



写真提供・阪神高速道路公団

土木学会刊行物ご利用の方へ

土木学会には現在数多くの委員会があり、これらの委員会では、それぞれの目的に沿って各種の調査・研究を行なうとともに、その成果を出版物として刊行しています。土木学会の出版物は多くの人々の意見を取り入れ最高の内容が平易に記述されてありますので、新学期を迎え、学校・職場等でまとめてご利用下さるようご案内いたします。20部以上とりまとめてご注文の節は土木学会へご相談下さい。

4月上旬発行予定

予約申込受付中

土木製図基準
— 製図の書き方 —

体裁：A4版／写真植字による平版印刷／本文
170ページ・折込20葉・色刷4葉／上製本

定価：1300円／会員特価：1100円（〒150）

注：前号で送料学会負担とあるのは誤りです。

土木学会が土木製図基準を定めたのは昭和28年です。それから十数年……、この製図基準で学んだ多くの技術者が育ちました。しかし、最近の技術の進歩、学術の発展を考えたとき、それに見合った設計・施工を行なわなければなりません。このような事情により、本会では、土木製図基準改訂委員会を設置し、改訂作業をすすめていましたがこのほど全作業を終了し、近く刊行の予定ですので広くご利用下さい。

内容：本文 ■第1編 総則：1.1 通則／1.2 図面の大きさと配置／1.3 投影法／1.4 尺度／1.5 線／1.6 文字および数字／1.7 作図の通則／1.8 断面／1.9 寸法／1.10 材料／1.11 グラフ／1.12 印刷目的のための製図 ■第1編総則の解説 ■第2編 鋼構造物：2.1 通則／2.2 図の種類と尺度／2.3 図の配置／2.4 部材断面／2.5 寸法／2.6 リベット／2.7 ボルト／2.8 溶接記号／2.9 仕上記号表／2.10 材料 ■第2編 鋼構造物解説 ■第3編 コンクリート構造物：3.1 通則／3.2 図の種類と尺度／3.3 図の配置／3.4 鉄筋の表わし方／3.5 PC鋼材の表わし方／3.6 寸法／3.7 材料表その他 ■第3編コンクリート構造物解説 ■第4編 測量その他：4.1 測量／4.2 道路／4.3 鉄道／4.4 河川およびダム／4.5 上下水道および下水道 ■第4編 測量その他の解説 ■

付録：製図の書き方 ■第1章 製図用の器具と材料：1.1 製図室の設備／1.2 製図板と製図台／1.3 標準的な製図器具／1.4 T定規／1.5 三角定規／1.6 製図機械／1.7 曲線定規／1.8 物差／1.9 コンパス／1.10 鉛筆／1.11 烏口およびペン／1.12 製図用紙 ■第2章 基本製図：2.1 線の引き方／2.2 曲線と直線／2.3 線の交差／2.4 平行線と垂直線／2.5 文字の寸法／2.6 文字の書き方／2.7 消ゴムの使い方／2.8 鉛筆製図技法／2.9 墨入れ製図技法 ■第3章 簡単な図学 ■3.1 平行する直線および曲線／3.2 垂直線・垂線・角度の写しかえ／3.3 図形の写しかえおよび縮小・拡大／3.4 線の等分および関数分割／3.5 放物線の書き方／3.6 楕円の書き方／3.7 双曲線／3.8 五角形、7角形／3.9 種々の曲線（サイクロイド、らせん）／3.10 計算図表と図式解法 ■第4章 投影法：4.1 スケッチ／4.2 第三角法投影／4.3 簡単な投影／4.4 等角投影と不等角投影／4.5 透視図・切断図 ■第5章 図面の計画と利用：5.1 元図と原図／5.2 図面製作の系統的な計画／5.3 チェックリスト／5.4 図面・資料の管理・著作権 ■第6章 都市・地域計画関係の製図：6.1 都市・地域計画関係図面の存在意義と位置／6.2 都市・地域計画関係図面の具体例とその種類 ■第7章 付録：7.1 参考文献／7.2 各種規準目録／7.3 索引／7.4 各種添布図面および図面目録 ■

土質実験指導書

改訂版

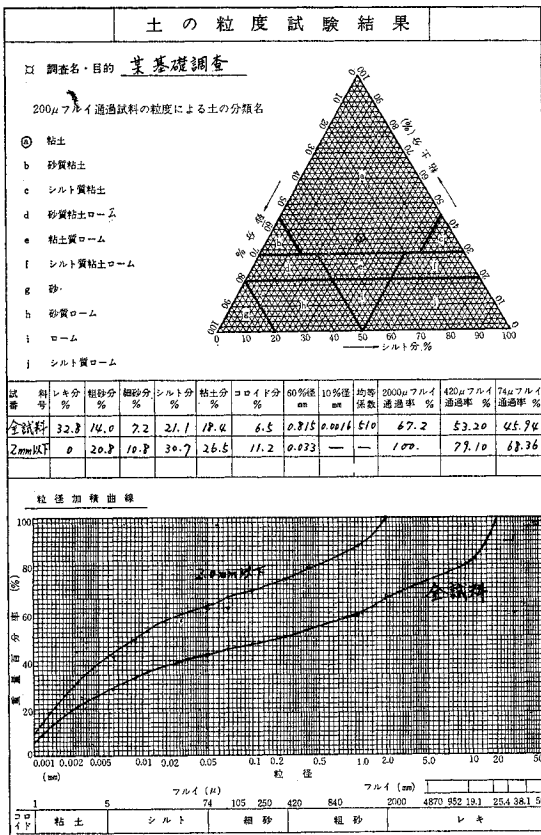
体裁：B5判 本文 65 ページ
 データーシート 26 葉
 定価：320 円
 送料：70 円

内 容：本文■土の試料調製方法／土粒子の比重試験方法／土粒子の比重試験（データーシート記入例）／土の含水量試験方法／土の粒度試験方法／土の粒度試験Ⅰ（データーシート記入例）／土の粒度試験Ⅱ（データーシート記入例）／土の粒度試験結果（データーシート記入例）／土の液性限界試験方法／土の塑性限界試験方法／土の遠心含水当量試験方法／土の現場含水当量試験方法／土の収縮常数試験方法／土の突固め試験方法／室内 CBR 試験方法／現場 CBR 試験方法／土の一軸圧縮試験方法／土の圧密試験方法／土の圧密試験Ⅰ～Ⅶ（データーシート記入例）（7 枚）／土の直接せん断試験方法／土の三軸圧縮試験

データーシート■土粒子の比重試験／土の含水量試験／土の粒度試験Ⅰ，Ⅱ（2 枚）／土の粒度試験結果／土の液性限界，塑性限界試験／土の遠心含水当量，現場含水当量試験／土の収縮常数試験／土の突固め試験Ⅰ，Ⅱ（2 枚）／CBR 試験（乱した土の室内試験）Ⅰ，Ⅱ／CBR 試験（現場試験）／土の一軸圧縮試験（2 枚）／土の圧密試験Ⅰ～Ⅶ（7 枚）／土の直接せん断試験Ⅰ～Ⅲ（3 枚）／土の三軸圧縮試験

付記：データーシートはコピーのできるように印刷してあります。

土質実験指導書記入例（全体の 1/4）



土木材料実験指導書データーシート見本（全体の1/4）

実験名		アスファルト混合物安定度試験（マーシャル式）			5-6 a
試験日	昭和 年 月 日				曜 天候
試験日の状態	室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)		
	状 態				
混合物の種類					
理論最大密度の計算					
骨材の種類	産地名	① 配合比 (%)	② 各骨材の比重	③ 係数 $\frac{①}{②}$	
係数の和 = ④ =					
乾燥骨材の比重 = $\frac{100}{④}$					
⑤ アスファルト混合率 (%)	⑥ アスファルトの比重	⑦ $\frac{⑤}{⑥}$	⑧ $\frac{④(100-⑤)}{100}$	⑨ ⑦+⑧	⑩ 理論最大密度 $\frac{100}{⑩}$
考 察					
実験者	所 属				
	氏 名				

土木材料実験指導書

改訂版

体裁：B5判 本文140ページ
 データーシート 56 葉
 定価：460 円
 送料：100 円

内容：本文■第1章 セメント：セメントの比重試験／セメントの粉末度試験／セメントの凝結試験／セメントの安定性試験／セメントの強さ試験 ■第2章 骨材：骨材のフルイ分け試験／粗骨材の比重および吸水量試験／細骨材の比重および吸水量試験／細骨材の表面水量試験／骨材の単位容積重量試験／砂の有機不純物試験／モルタルの圧縮強度試験による砂の試験／骨材の洗い試験／粗骨材のスリヘリ試験／粗骨材の軟石量試験／骨材の安定性試験 ■第3章 コンクリート：コンクリートのスランプ試験／まだ固まらないコンクリートの空気量の測定（空気室圧力方法）／コンクリートの圧縮強度試験／コンクリートの引張強度試験／コンクリートの曲げ強度試験／配合の設計／まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験／ミキサで練り混ぜたコンクリート中のモルタルの単位容積重量差の試験／コンクリートのブリージング試験／シュミットハンマーによる強度の非破壊試験 ■第4章 鉄筋：鉄筋の引張試験／鉄筋の曲げ試験 ■第5章 アスファルト：アスファルトの針入度試験／アスファルトの伸度試験／アスファルト軟化点試験（環球法）／アスファルトの引火点試験（クリーブランド開放式）／アスファルト乳剤のエン格拉ド試験／アスファルト混合物の安定度試験（マーシャル式）／アスファルト混合物の配合設計（加熱混合式）／アスファルト混合物の抽出試験（遠心分離法）

データーシート ■ 上記の各項目の試験結果をもれなく記入整理できるように配列し，記入例もとり入れてあります。

水理実験指導書

水理実験指導書本文の組見本（全体の 1/4）

体裁：B5判 本文 38 ページ
 データーシート 21 葉
 定価：250 円
 送料：70 円

内容：本文■粘性の測定／マノメーターの実験／浮体の安定／直角三角ぜきの検定の実験／ベンチュリメーターの実験／層流と乱流／常流と射流／水門の流出実験／オリフィスの流出実験／管路の流速分布／管路の摩擦損失水頭の実験／開水路流速分布の測定／開水路の等流・不等流の実験／付・物理常数表

データーシート ■ 粘性の測定／マノメーターの実験／浮体の安定／直角三角ぜきの検定 1, 2 / ベンチュリメーターの実験／層流と乱流／常流と射流／水門の流量係数／オリフィスの流量係数（その 1, その 2）・（3 枚）／管路の流速分布（2 枚）／管路摩擦損失水頭（2 枚）／開水路流速分布の測定（3 枚）／開水路の等流，不等流の実験（2 枚）

4. 直角三角ぜきの検定の実験 (JIS 8302-一部引用)

1. 目 標

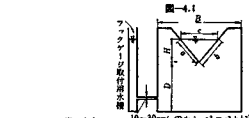
- せきの越流水深と流量を測定し流量係数を求め、JIS の値と比較する。
- 越流水深と流量のグラフをかき、他の実験の流量測定を容易にする。

2. 使用器具

- 直角三角ぜき
- ストップウォッチ 1 個
- フック ゲージ、またはポイント ゲージ 1 台
- 量水器（たとえばマス、バケツ、はかりなど） 1 式
- 鋼巻尺 1 本

3. 要 領

- せきの幅(B)と深さ(D)を測定し、辺長を測定することにより正しく90°であることを確かめる(図-4.1)。
- 量水器を正しく検定する(特に容積測定によるときは容積を正しく測定する)。
- せきの上流側に越流水深測定用のフックゲージ、またはポイントゲージをとりつけ、そのゼロ点をきめる。
- 流量を適宜に調節して越流水深が一定になったら越流水深を測定する。流量は同一の越流水深で5回以上測定する。
- 順次流量を変えて(4)の測定を行なう。



せきの形状	幅 B × b (cm)	水深範囲 H (cm)	流量範囲 Q (l/sec)
60° 三角	45	4 ~ 12	0.3 ~ 4.3
90° 三角	60	7 ~ 20	1.0 ~ 25.0
90° 三角	80	7 ~ 26	1.0 ~ 48.3
四 角	90 × 36	3 ~ 27	3.5 ~ 91.6
全 幅	60	3 ~ 15	6.0 ~ 56.6

4. 注 意

- 要領(3)のゼロ点のきめ方にはいろいろあるが、簡単にする方法は、せき上流側の水面にうつるせきの影とせきの縁とが一直線になったとき、せき頂に水面が一致したものとしてフックゲージなどの先端を水面に合わせ、このときのゲージの読みをゼロにすればよい。
- フックゲージをとりつける位置は、図-4.1 のようなゲージとりつけ用の小水槽を作るとよい。もし、このような水槽が作れないときは、せき板上流 3H ~ 4H の付近で水面流動の少ない場所を選ばなければならない。ただし、このHは、測定範囲の最大越流水深である。
- 流量測定の方法は、容器にある時間流水をため、これを体積、または重量で測定し、その貯水量を貯水時間で割ればよい。

編著者名	図 書 名	判 型	ページ数	会員特価	定 価	送 料	備 考
土木学会編	コンクリート標準示方書 【昭和42年版】	B 6					5月初刊行
同	コンクリート標準示方書解説 【昭和42年版】	A 6					6月末刊行
同	人工軽量骨材コンクリート 設計施工指針(案)	B 6	53	250	300	50	
同	プレパックドコンクリート 施工指針(案)	B 6	38	220	180	50	
同	ディビダーク工法 設計施工指針(案)	B 5	88	500	700	70	
同	プレストレスト コンクリート設計施工指針	B 6	124	250	350	70	
同	トンネル標準示方書	A 5	34		100	50	示方書条文
同	トンネル標準示方書解説	A 5	138	500	600	70	条文を詳細に解説
同	水 理 公 式 集	A 5	603	1 100	1 400	150	
同	土木技術者のための振動便覧	A 5	450	2 000	2 400	150	
同	土木技術者のための岩盤力学	B 5	489	3 000	3 600	200	
同	日本の土木技術 —100年の発展のあゆみ—	A 5	488		1 200	150	土木工学 入門書
同	トンネルと掘削工法	A 5	342	650	800	100	14編を収録
同	最近の基礎工法	B 5	322	800	1 000	120	10編を収録
同	構造工学における最近の諸問題	B 5	320	1 200	1 500	150	12編を収録

上記図書をご希望の方は下記へお申込み下さい。なお、ご注文は前金で願います。

申込先：社団法人 土木学会 東京都新宿区四谷1丁目 電話 東京(351)5130・振替東京16828番

土木学会誌投稿要項, 投稿規則改訂に際して

土木学会誌編集委員会

土木学会誌編集委員会は、かねてより「土木学会誌投稿要項」ならびに「土木学会誌投稿規則」の改訂を検討して参りましたが、このほど下記のとおり改訂、昭和42年5月1日より実施することとなりました。

一般の改訂の主眼は、より充実した内容をより簡明に会員諸氏にお伝えすることにあります。投稿を希望されます各位におかれましては、本委員会の意図するところ

をご理解のうえ、より完成された論文の作成を希望します。なお、本改訂に際しまして明文化はできませんでしたが、論文受付から論文掲載までの期間をより短縮することも考えました。もとより、今回の改訂で十分は申せませんが、会員各位のご協力を承わりまして、完全なものとしたく各位のご協力をお願い申し上げます。

土木学会誌投稿要項

(昭和42年5月1日実施)

1. 投稿される方は、土木学会名誉会員、正会員、学生会員に限りまゝす。
2. 投稿される原稿(以下原稿という)は、すべて土木学会誌(学会誌)の記事としてふさわしく、かつ土木学会会員が興味をもって読むものであって下さい。
3. 原稿はその内容が正確であり、文章は容易に理解できるものであり、その表現方法は、図、表、写真等を使用して、より効果的であるよう配慮して下さい。
4. 原稿は、原則として未発表のものに限りまゝす。ただし、その内容の一部が他誌に発表されている場合は、その旨を明記して下さい。
5. 文中に引用された文献は、別に定める方法によって、その出典を明記して下さい。
6. 原稿は学会誌編集委員会が審査をなし、掲載の可否を決定致します。
7. 審査に関する諸件は公開致しません。掲載させていただいた原稿には、別に定める規定にしたがい原稿料を支払います。
8. 学会誌では、編集著作権を社団法人土木学会が保有し、原稿著作権は著者が保有するものとします。
9. 投稿に際しては、別に定める土木学会誌投稿規則によって下さい。

以上

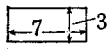
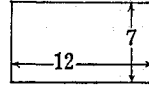

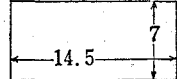
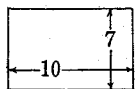
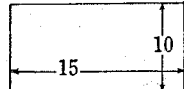
土木学会誌投稿規則

(昭和42年5月1日実施)

1. 原稿投稿の際には、原則として土木学会原稿用紙(以下原稿用紙という)を使用して下さい。原稿用紙(横書き・25字×16桁=400字・30枚綴・定価@50円・千@20円)は、土木学会事務局編集課で頒布致します。
2. 土木学会誌(以下会誌という)の掲載区分は、表-1に示すとおりです。投稿に際しましては、希望掲載区分を朱記のうえ、土木学会事務局編集課土木学会誌原稿投稿係まで、書留便にてお送り下さい。
3. 投稿に際しましては、表-1に明記したページ制限を厳守して下さい。ページ制限を超えた原稿は、審査前に投稿者に返送致しますので、あらかじめご承知おき下さい。

4. 会誌の標準字詰は原稿用紙5枚で刷上り1ページとします。なお、この中には図、表、写真等のスペースが含まれておりますので、十分ご留意下さい。なお、図、表、写真等の対字数換算の基準は、図-1によって下さい。
5. 投稿された原稿は、原則として返却致しません。必要とされる原稿は、投稿前にコピーをとっておいて下さい。
6. 投稿に際しては、会員区分、氏名、年令、学位、勤務先住所、役職名、自宅住所、同電話番号等明記した、原稿用紙六のメモを添付して下さい。
7. 表-1中ゴシック体で記してある区分に投稿される場合は、「主旨」および「結論」の2欄を必ず設け、その意図するところ明示して下さい。すなわち、「主旨」欄は約400字とし、この欄において会員に当該論文の内容が、現時点における関係分野での問題点との関連、および論文が

図-1 図、表、写真対字数換算表

区分	大きさ (cm)	字数	区分	大きさ (cm)	字数
A		175	D		700
B		300	E		800
C		550	F		1 150

何を読者に知らせようとしているかを、簡単に理解させることを目的としたものである。また、「結論」の欄にあっては、該当論文が結論として示すことのできる諸点を、簡易に列記して下さい。「主旨」欄は特に本文とは別に、組版・印刷を行いません。

8. 7. に関係する論文にあっては、原則として編、章、節の記号を下記の要領にしたがって、表記して下さい。本表記以下の細見出しは、論文が複雑になりますので、極力避けて下さい。

$$\left\{ \begin{array}{l} 1, 2, 3, 4 \sim n \cdot \text{編} \\ (1), (2), (3), (4) \sim (n) \cdot \text{章} \\ a), b), c), d) \sim n) \cdot \text{節} \end{array} \right.$$
 なお、各編章節中の箇条書に用いる記号は下記のようにして下さい。
 1), 2), 3), 4) ~ n)

9. 論文に引用した文献は、下記の要領にて明記して下さい。

(1) 論文中の表示法

該当箇所の右上に小さい文字で記入する。

〔例〕

求める量であるから、式(7)の値は簡単に求まり、これに対応する n の値が図-3で求められるのである。 n が決まれば有効排水直径 d_v はすぐ求まり、工期に於ける設計が簡単に行なえる。図-3中には換算のため80%圧密の時間係数と n の関係を、Barron²⁾、高木³⁾の計算結果により示している。

(2) 記載方法

9. (1) で示した文献は、すべて文末にまとめて記載して下さい。記載方法は下の例にしたがって下さい。

〔例〕

- 1) Lamb, H.: "Hydrodynamics," 6th ed., Cambridge Univ. Press, 1963, p. 65.
- 2) Davenport, W.B. Jr. and Root, W.L.: "An Introduction to the Theory of Random Signals and Noise," McGraw-Hill Book Co., New York, 1958, pp. 149 f.
- 3) 本間 仁・安芸敏一: 物部水理部, 岩波書店, 1962, pp. 430-463.
- 4) Miles, J.W.: "On the Generation of Surface Waves by Shear Flows," J. Fluid Mech., Vol. 3, Pt. 2, Aug., 1957, pp. 185-204.
- 5) Koenig, H.W.: "Energieumwandlungsanlagen der Biggetalsperre," Wasserwirtschaft, Heft 1, Januar, 1967, S. 25-28.
- 6) Miche, M.: "Amortissement des Houles dans le Domaine de l'Eau peu Profonde," La Houille Blanche, No. 5, Novembre, 1956, pp. 726-745.
- 7) Wiegel, R.L. et al.: "Generation of Wind Waves," Proc. of A.S.C.E.,

Vol. 92, No. WW 2, May, 1966, pp. 1-26.

- 8) 国分正風・岡村 甫: 高強度異形鉄筋を用いた鉄筋コンクリートばりの疲労に関する基礎研究, 土木学会論文集, No. 122, 10月, 1965, pp. 29-42.
10. 文中の脚注は、下記記号を使用して、そのつど原稿用紙下部へ明記して下さい。表示法は9. (1) に準じて下さい。
a), b), c), d) ~ n)
11. 図、表、写真には、図、表、写真番号と、簡明なタイトルおよび出典を明記し、文末にまとめて添付して下さい。なお、図、表、写真等の挿入位置は、論文の該当箇所の右側空白欄(原稿用紙図、写真、表位置指定欄)にその旨明記して下さい。
12. 添付する図面の表記方法は、原則として「土木製図基準(1967年改訂

版・土木学会発行)」記載の様式にしたがって下さい。会誌原稿は原則として学会でトレースをしますが、できるだけ対仕上り2~3倍の墨入れ原図(文字は鉛筆書きとする)を提出して下さい。

13. 登載に際しましては、標題、表記方法の一部を、会誌編集委員会の希望により、執筆者と相談のうえ変更することがありますので、ご承知おき下さい。
14. 投稿に関する諸件は、下記係までご照会下さい。

東京都新宿区四谷1丁目無香地
 社団法人 土木学会
 事務局編集課会誌係
 電話(03)351-5130番(直通)

以上

表-1 登 載 区 分

登 載 区 分	ページ制限	内 容
巻 頭 写 真	キャピネ版以上・枚数制限は特にありません	巻頭を飾るにふさわしい土木関係の写真。簡単な説明文(1件400字・長文の場合はニュース欄に載せる)を付けていただく。完成工事のみではなく、広く工事中の写真でも可とします。
論 説*	4 (20枚)	日本の土木等の向上のために広く意見を述べる欄です。建設的かつ公正な提言を希望します。
報 告**	6 (30枚)	土木の分野すべての関係業務やこれに関係する研究、工事、試験等の報告を発表する欄です。なお、基礎的な研究報告は土木学会論文集が受持ちますのでご注意下さい。
展 望	6 (30枚)	専門各分野の現状、今日の問題点、その他を、通常知ることの出来ない専門外の会員にその分野を知っていただく欄で、これを読むことによって、その分野が良く理解できるものを希望します。
話のひろば	4 (20枚)	土木にたづさわる者が、日常その生活の場で体験される数々の経験等から、会員相互の向上に役立つことを主眼に述べられる欄で、随筆、経験談、体験談、旅行記、提案等の広い範囲が本欄に入ります。
資 料	4 (20枚)	会員の直接業務に活用出来るもの、またそれに準ずる利用価値のあるもの、類似の資料を収集整理したもの、または比較のための資料を集めたもので、会員の判断と利用の方法を誤らぬよう注意のうえ書かれたものが入ります。
解 説***	4 (20枚)	工法、試験法、計算法等の一つのパートを取り上げ、広く、または深く解析したものが入ります。ただし、本区分で投稿を受けた原稿は、文献調査委員会と共同して審査に当ります。
寄 書	4 (20枚)	論説に準ずるものではあるが、ややそれより軽い原稿、あるいは一提言の類が本欄に入ります。
豆 知 識	0.3~0.5	土木技術に直接関係あるもの、またはこれくらいは知っておきたいというものを簡明にまとめられたもの。
ニ ュ ー ス	0.5	全国各地で実施されている各種工事等の完成、着工、計画、決定等の新鮮なニュースを載せる欄で、出来るだけ、図、表、写真等を利用して、簡明に仕上げるようにして下さい。締切りは毎月10日とします。なお、本欄のみ筆者名は発表致しません。
読 者 の 窓	0.5	会員が何か不審に思っていること、知りたいこと、会員相互の連絡の場として利用する等、会員に広く利用していただく欄です。

注: 1) *, ** 両欄のページ制限はおおの 4, 6 ページですが、その内容からして増ページが不可避の場合は、委員会の事前の了承を得ることにより、おおの 6, 8 ページまでその制限をゆるめることが出来る。ただし、その際は論文要旨、目次案等明記のうえ、事前に委員会まで申し出て下さい。(東京都新宿区四谷1丁目無香地 社団法人土木学会 土木学会誌編集委員会宛)

- 2) *** 文献調査委員会が登載するものは解説記事としてこれと区別する。
- 3) 本ページ制限、および区分は投稿原稿を対象とします。
- 4) 依頼原稿の場合は、本制限から制約を受けないときがあります。